

第 13 章（対外金融政策）の重要用語

①マクロ経済政策協調

複数の国々が共通の目標を達成するためにそれぞれの財政政策と金融政策を活用すること。共通の目標としては、世界同時不況の時に各国の景気を同時に回復させることや、経常収支の不均衡を是正することなどがある。

②基軸通貨

国際的な支払いや中央銀行の準備通貨として、幅広い国々で使用される通貨。一般的には、経済と政治の両面で世界を主導する国の通貨が基軸通貨となる。第一次大戦以前は英ポンドが、第二次大戦後は米ドルが基軸通貨であった。

③基軸通貨特権

基軸通貨を発行する国が、経常収支赤字を一定期間持続させることができること。基軸通貨特権が生じるのは、基軸通貨国は外国に対する支払いを自国通貨で行うことができ、外貨準備の制約を受けないため。

④グローバル・インバランス是正（不均衡是正）

大幅な経常収支黒字国と大幅な経常収支赤字国が存在する状態をなくし、各国の経常収支の黒字・赤字をそれぞれ小幅に収めること。近年では、中国、日本、ドイツなどの黒字とアメリカの赤字をそれぞれ縮小することを指す。

⑤自由貿易協定（FTA）

FTA は Free Trade Agreement の略。複数の国々の間で、貿易の拡大を目的として、関税障壁や非関税障壁を撤廃する協定。FTA には、北米自由貿易協定（NAFTA）のような多国間の協定と、米韓 FTA のような 2 国間の協定がある。

⑥環太平洋経済連携協定（TPP）

TPP は Trans Pacific Partnership の略。2006 年にシンガポール、チリなど 4 カ国によって結ばれた自由貿易協定。2010 年からアメリカなど 5 カ国も加わり、自由貿易に加えて経済諸制度の調整も視野に入れて交渉が進められている。

⑦人民元改革

人民元の為替レートについて厳格な対ドル固定相場制をやめて、為替レートの変動幅を拡大すること。現在、人民元の目標レートはバスケット方式で決定されている。アメリカは人民元上昇を目指し人民元変動幅の拡大を要求し続けている。

⑧第一次量的金融緩和政策（QE1）

QE1 は Quantitative Easing 1 の略。量的金融緩和はゼロ金利状態の下で通貨供給量を増加させる政策。QE1 では、FRB（アメリカの中央銀行）が 2009 年 3 月から 2010 年 3 月まで長

期米国債 3000 億ドルの購入などにより金融機関に現金を供給した。

⑨ 第二次量的金融緩和政策 (QE2)

QE2 は Quantitative Easing 2 の略。量的金融緩和はゼロ金利状態の下で通貨供給量を増加させる政策。QE2 では、FRB (アメリカの中央銀行) が 2010 年 11 月から 2011 年 6 月まで長期米国債 6000 億ドルの購入により金融機関に現金を供給した。

⑩ 準備通貨

各国の中央銀行が国際的な支払いや為替介入のために保有している外貨。準備通貨には、国際的に広く使用されており、かつ価値が安定した通貨が選択される。現在は基軸通貨であるドルが世界の準備通貨の大半を占めている。

⑪ 米国債

アメリカ連邦政府が発行する国債。返済期間が 1 年未満の財務省短期証券 (Treasury Bills, TB)、1~10 年の財務省中期債 (Treasury Notes)、10 年以上の財務省長期債 (Treasury Bonds) に分けられる。

⑫ SDR

Special Drawing Right の略。特別引出権。1969 年にドルを補完する準備通貨とする目的で IMF の資金として作られた。現在、SDR の価値はドル、ユーロ、円、ポンドの組み合わせによって計算される (バスケット方式)。

⑬ 複数基軸通貨制

基軸通貨が複数存在する状態。歴史的には、第一次大戦と第二次大戦に挟まれた期間 (1919 年~1939 年) が、英ポンドと米ドルの複数基軸通貨制の時代であったとされる。